[illegible]實金三千[illegible]圓を乘せ梅澤近衛少尉之を監理し居れり

○知事と警部長　（馬關十三日午前十一時特發）大浦山口縣知事及び齋藤山口縣警部長の兩氏は本日當地へ來着せり

[illegible]を開きたり

○外國船の拔錨　（長崎三月十三日午前十一時卅分特發）米國軍艦一隻、獨逸軍艦一隻は何れも本日當地を拔錨せり

[illegible]口筋の買ひ先物は三圓、和久伊の戾り賣り田丑、鍛冶松[illegible]錢に引けたり

●神[illegible]　上彌の買ひにて寄付九圓[illegible]錢は[illegible]（九日午後三時三分特發）三月限後場止　八圓三十八錢五厘　四月限後場止　八圓四十七錢　●攝津中米　五月限後場止　八圓五十七錢五厘

時事新報

羊毛も免税す可し

衆議院にては曩に綿花の輸入税廢止案を可決したるに引續き更に羊毛の輸入税をも免除せしめんとの說あるは由なるが我輩も此說には大に贊成するものなり我國毛織物の需用額は近來俄に增加したるのみならず又將來もます／＼增加せんとするの今日に當り其製造業も漸く發達して他日の基礎を建てんとするは大に喜ぶ可き事にして之を助くるには唯原料の供給を自由にするより先きなるはなかる可しと雖も我國にては古來羊を飼ふの道を知らず從て內地に羊毛を產せざるが故に毛織物は非常に珍重せられて其價甚だ貴く猩々緋の陣羽織は諸侯の外用ふるものなかりし程の次第なりし其代りに蠶を養ふの業は夙に發達し絹物の低廉なるは世界無類にして歐羅巴にては王公貴族に非ざれば購ひ難き程のものを中等以下の婦女子が惜氣もなく用ひ居たるは開國早々我國に來りし外國人の驚きたる所にして最初は唯その贅澤に驚きたりしも後に至り價を聞て尙ほ更に驚き日本の生絲が自國の機織器械に應ずるや否やも問はず漫に之を買入れ本國へ積送りて失敗したるもの〻少なからざりしは今日記憶する人も多き話なる其反對に外國人を見るに我國にて從來貴重せし毛織物を纏ふて其扮裝の贅澤なるは幾百金のものを身に着るかと疑はしめたるは我國人の驚きたる所なり然るに其後互に往來交通の頻繁を爲るに從ひ今日にては絹物生絲の價も歐米と大なる相違なくして開國前に比すれば甚だ騰貴したる代りに毛織物の價は甚だ下落して猩々緋の陣羽織決して珍らしからず需用供給の本則は實際に行れて我れに餘れる蠶絲絹物は彼れに往き彼れに裕かなる毛織物は我れに來りて双方共に相塲の一點に依て動く事と爲りたれば今後の成行も推して知る可きなり我輩の所見を以てすれば開國以來蠶絲絹物の輸出多きに引換へ毛織物の需用は甚だ少なくして雙方の釣合大に權衡を得ざりしかども今後は之に反して毛織物の需用甚だ多からんと思はる〻其理由は例へば我國人の衣食生活も近來次第に西洋の風に近いて互に長短取捨するの有樣は實際の必要より來りし者にして見榮にも非ざれば又贅澤にも非ず左れば我國民が今後次第に毛織物を需用するは從來孤立の風俗を去て世界一般の風俗と相一致するものなれば到底止めんとして止まる可からず假令ひ將來の流行には日本の振袖が歐洲に行はる〻の時代もあらんかなれども夫れが爲めに日本人が洋服を止めにして毛織物を棄つる等の事なきは明白なり木綿絹物の需用供給は今や世界に平均したるが如く毛織物も亦東西相平均して我國被服の一要素と爲る可きものなれば之を製するの事業も亦絹木綿に次て起る可きは勿論なれども唯その原料の我國に產せざるが故に之を取扱ふの智識足らずして絹木綿に比すれば發達の順序一步遲れたるに過ぎざるのみ然るに今や木綿の業は殆んど其基礎を定めたれば次で來る可き毛織物に就て工業家の注目するは當然にして內地に於てこそ其原料を求むるに難しと雖も一步外に出づれば其供給は多々ます／＼辨ず可し就中濠洲各殖民地の如きは毎歲歐洲の需用を充して餘りある羊毛を產すること印度の綿花と同樣なれども其土地に於ては人口足らずして之を製出すの[illegible]なしと云ふ我國の爲めには寶の山にして一日も手を空す可きに非ざるのみか航路の擴張も早晚此方面に向て開けんとするの今日なれば輸入税の如きは無論全廢して孟買より綿花を輸入するが如く羊毛の輸入を自由にして毛織の業を奬勵すること目下の急なりと云ふ可し

雜報

○グラッドストーン再び出でんか

米國サン新聞の倫敦通信員がグラッドストーン氏の親友より親しく聞き及べる所なりと云ふに據れば氏はアルメニア事件に付き現首相ソールズベリー卿の政略緩慢に失し今や恰も放擲の姿となりたるを見て非常に奮慨し彼の地に於て幾多の耶蘇教徒殘害せらる〻を雲烟過眼に附して果斷の處置を施さゞるは正しく英國民の人情道德に乏しきを世に示したるものにして我國の史上に未曾有の汚點を附したれば氏は最期の思出に非命に倒れし生靈の爲め內外の人心を喚起し其鬱憤を晴らさしむるこそ餘命幾許もなき身の義務なれと再び政界に打て出づる覺悟頗る固しと但し氏は獨り保守黨のみならず自由黨が政府の失政を戒めざりしをも遺憾に思ひ居れば孰れへも味方せず唯獨立獨行して此事に全力を盡しいよ／＼其目的を遂げし時は早速政界を退くの意なるよし

○新發明の寫眞術に就て

前號の紙上にも記載したる如く獨逸ロエンドゲン博士の發明せる寫眞術の公にせらる〻や內外の專門家は其實驗に忙はしく墺地利維納府のノイッセル博士は講義の際學生にロエンドゲン博士の所謂X光線を以て寫し取りたる二個の寫眞を示めして曰く一は病人の肝臟に在る胆石、一は膀胱中の石を寫したる者にして共に寫眞板を用ひしに恰も雪の如き色にて物體の形現はれ出で明に其質を認め得たりと尙はノイッセル博士は人體の內部の機關を寫出せんと今や其用意中にて首尾能く成功せば醫學上に益する所少なからざる可しと云ふ然るに佛國の電氣學者ダルソンヴアル氏がレボン氏より聞き及べる所なりとて此新發明に付き學士會院に於て述べし所に據れば箱又は筋肉の如き不透明體を貫きて其中の物體を寫すには敢てロエンドゲン博士のX光線を用ゆるを要せず唯普通の光即ち石蠟燈の光線を用ゆれば充分にして既にレボン氏は數年の間これを經驗せりと果して眞實なるや否や記して後報を竢つ

○臺灣兵站監部の廢止

臺灣兵站監比志嶋少將は今度守備隊の混成第三旅團長に補せられて兵站監部附たりし憲兵百四十餘名は夫れ／＼歸京の途に就きたれば今後同部は廢止となり其事務は總督府の陸軍局にて取扱ふべしと云ふ

○臺灣行の憲兵

兼て戶山學校にて訓練中なりし新憲兵百九十餘名は既に卒業試驗も終りたれば來る二十日頃出發して臺灣に赴く筈なりと云ふ

○臺灣憲兵隊の給與

臺灣憲兵隊も守備隊と同じく目下は戰時給與を受け居れども來る四月以後は平時給與に復し同時に威海衛占領軍の給與法と同樣に俸給は五分一を增し將校以上の食料は現金を以て支給することになるべしと云ふ

○西班牙人の蠻行

紐育ヘラルド新聞は報じて曰く西班牙のルツクヱ將軍が亂民より攻取りしパンリール府にマセオ病院と云ふあり歲日の事なり西班牙の義勇兵及び常備隊は突然此病院を襲擊して其處に入院し居たる幾多の病人及び負傷者を殺戮し且つ他の民家に療養し居たる病人を或は地上に引摺り或は無慘にも其戶前に於て虐殺せり加之此餘の病人を看護し居たる男女も亦西班牙軍の爲めに捕縛され一揆軍と關係ありと疑はれたる幾多の人々もパイン嶋に流さんが爲め捕縛の上鎖に繫がれて近傍の海港に送致されたり

○李鴻章の歐洲旅行

天津より上海の或る官吏の許に達したる報道なりと云ふに據れば李鴻章は露國行の途、佛國マルセール港に上陸し其れよりセントピータースバルグ府へ到る可し而して使命を終り歸國する節は或は歐洲大陸を漫遊することなしと云ひ難けれども米國に赴くや否やは未だ明ならずと（北支那日々）

○米國公使館の宴會

本邦駐剳の米國公使エドウヰン、ダン氏は昨十三日午後五時より各國公使を初め內外の貴顯三十餘名を赤坂葵坂町の同公使館に招待して晚餐の宴を催したり氏は來月一應歸國し九月に再び渡來するならんと云ふ

○露國の新任內務大臣

昨年十二月十八日の露國官報によれば同國內務省辨理ゴレムイキンは內務大臣に陞任したるよし

○松方正作氏の結婚

目下歸京の途次なる松方伯の次男清國上海總領事館詰領事補松方正作氏は今度岩崎彌之助氏の令孃と結婚の約成りたれば其歸京の日を以て合卺の禮を行ふといふ

○實子殺しの捕縛（つゞき）

扨長五郎は寄席の主人に斯くまで世話を受けたれば義理にも此度は辛抱すべき筈なるに持つたが病ひとは云ひながら矢張り隙さへあれば酒を飮むにぞ折角開いて貰ひたる多町のポテ／＼茶屋も借錢の爲め遂に人手に渡す事とはなりたり度々の事とて寄席の主人も之にて最早やふつと愛想をつかしたれば今は誰一人世話する者なきが故に餘儀なく妻の里なる彼の末廣町の兄を便りて厄介人となりたれど同家に於ても僅か內職位の事なれば親子四人何日までも世話する事は思ひも寄らずと斷られて流石の呑助も今更夢の覺めたる如く悔悟の色は現れたれども[illegible]此先は如何せんと考ふるにも資本はなし奉公せんにも世話をする人さへなければ思案に暮れ居たる折柄斯る者には勿怪の幸ひにも日清の事件起りて多くの軍夫を募集する事となりたれば長五郎は是れ幸ひと兄、妻等とも相談して早速受負人の許に馳附て第二軍の附屬人夫となり一昨二十七年の九月中廣嶋を經て戰地に赴きたりしが跡に殘りし妻も亦貧しき兄の許に際限もなく厄介になり居るは心苦しきところより相談の上鐵太郎、新次郎の子供二人を兄に賴み自分は或る雇人請宿の周旋にて下谷竹町の華族生駒邸內に居住の士族某方の雇女となり若干の給金は子供の養育料として兄の許に送り居け其內には酒好の夫も今度こそ辛抱して何程か金圓も貯へて歸京する事ならんと女心の一筋に唯夫のみを便りにして其時は再び一戶を持ち親子四人水入らずに暮さんものと心中只管樂しみに主人大事と奉公せり然るに話し變つて彼の長五郎は戰地に赴くや手當金の內を割きて妻子の許に送らんともせず單身にて結句仕合なりとの考にや無分別にも得るところの金圓は酒と賭博に浪費して果は脚氣症を病み出し遂には人夫も勤まらず僅か足掛け五箇月にて昨年の一月二十九日一錢の貯へもなく垢染みたる仕着の法皮を

股引一枚にてスゴ／＼と末廣町な
り小舅は之を見て其歸京の意外に
る姿に驚き扨は例の酒故辛抱も出
氣の體なれば只呆氣に取られて暫
ど今更詮術なき事ゆゑ芝區愛宕町
を爲し居る兄某とも協議の上長男
方にて引取り養育する事となし妻
振方の就くまでは一時離別し二男
引連れて古鄕なる山梨縣甲府に戾
ひ長五郎の身持直らば素の通りに
せしかば長五郎も身から出た錆と
意に隨ひ心細くも五歲になる新
を立退きたるも古鄕へ襤褸を纏ふ
し面ぶせなりとて夫より新次郎を
泊歩行きし末同年の九月中兼て懇
一番地の人力車挽齋藤某方を便りて
り受けたるも之といふ商ひの道も
の青物問屋に泣付きて青物を賣歩
ひ僅かの資本なれば格別の利益な
病ひは未だ失せず彼是れと日を送
方も立退きを命ぜしかば詮方なく
いの如き薄蒲團等を合して屑屋に
入錢を携へ心細くも同年の十二月
次郎を背に負ふて同家を立退きたる
とてもあらざれば深川富川町なる
同日より七日まで三日間宿泊せし
入錢は飮食代に仕拂ひて殘るは僅
家に居る事も叶はず翌八日の朝親
家を立出たれど懷中には三錢より
さんと思案に暮れつ〻いつか大橋
空に步むともなく以前永らく住み
り小柳町に來りたる頃は日も早
なりにけり

新發明の

○如何